



落合恵美子・赤枝香奈子（編）

変容する親密圏／公共圏 2 アジア女性と親密性の労働

2012年，京都大学学術出版会，ISBN 978-4-87698-574-6，定価（3,600円＋税）

木 脇 奈智子

なぜ，アジアの女性にはケアワーカーが多いのか？ 本書はこの問いに対して，歴史的な女性労働の変容や豊富な事例に基づいて，ジェンダーの視点から答えを示してくれる。

序章「親密性の労働とアジア女性の構築」（落合恵美子）は，キーワードとして用いられる「親密性の労働」の概念枠組みを「家庭の中でも外でも，有償でも無償でも行われ，再生産やケアより広い範囲の活動を含む概念である」とする，そして多くの社会で女性が担っている活動を理論化し，アジアの女性が国境を越える家事労働者・妻・エンターテイナーとして期待され，移動する理由について明らかにするという本著の目的を示す。

本文は三部構成であり，第Ⅰ部「親密性の労働とは何か」では「親密性の労働」の歴史的形成をたどり，理論的な検討を加えることを試みている。第1章「ケアワークの文化，文化をこえるケアワーク」では，文化的枠組みとしてのケアの私事化，政策のパラメータとケアのレジームなど，再生産労働がいかに「女性のもの」として概念化されてきたかを明らかにしている。第2章「主婦の仕事・母の仕事」はオランダにおける主婦および家事労働の周縁化と，育児が周縁化しない実態を描いている。第3章「インド都市中間層における『主婦』と家事」は，家事を「家庭経営」「家事実務」「ルーティンワーク」に分類し，カーストや大家族など階層に応じて役割を持つことおよび，近年の変化が描かれている。

第Ⅱ部「〈良妻賢母〉の変奏」は，アジアにおける女性の理想像の形成と変容について検証している。第4章「近代初期韓国における『新女性』

の困難」は，国策としての良妻賢母思想とその変容を描く。第5章「モダニティを売る—1920-30年代上海における『月份牌』と雑誌広告に見る主婦の表象」は，科学的知識や家庭経営を身に付けた「新女性」が理想像として雑誌広告に描かれた様を分析する。第6章「市場経済の転換期を生きる中国女性の性別規範—3都市主婦のインタビューを通して」は中国の体制改革のために，「全職太太」や「家庭婦女」と呼ばれる異なった主婦層の出現を示している。第7章「公的労働と家事労働をうまくこなすには，三つの頭と六本の手が必要である」にも，母という仕事の聖職化と国策における「母」の利用，女性たち自身のこだわりが描かれている。

第Ⅲ部「越境する妻と労働者」では，第8章「農家の娘から外国人妻へ—ベトナムの移民送出コミュニティにおける結婚・移住・シェルター」は，ベトナム女性の国際結婚による移出とベトナム人男性の結婚難を描く。第9章「業者婚をした中国人女性の主体性と葛藤」では結婚で来日することで上昇を目指す3タイプを分析する。第10章「シンガポールにおける海外出稼ぎ家事労働者の抵抗の諸相」では虐待や搾取を受ける外国人労働者の「抵抗の様式」をち密に明らかにしている。第11章「日本における移住セックスワーカー」は社会的排除による外国人労働者のさらなるアンダーグラウンド化を描き，第12章「韓国の移民政策における多文化家族の役割」では韓国における国際結婚の増加と変容を描いている。

豊富な海外調査に基づく論文であり，読み応えがありつつも一気に読ませる一冊である。